

新入生の皆さん、東京医科歯科大学への入学 本当におめでとうございます。

パンデミック収束の兆しが見えはじめ、本日こうして皆さんと入学式を挙行できますことは本学教職員一同にとっても大きな慶びであります。感染拡大への注意が必要な状況の下での受験を経て、合格に至った皆さんの努力に敬意を表します。また、皆さんの努力を支えてこられたご家族・関係者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、これから、今までの学習環境とは異なる生活が始まります。受験を終えた安堵とこれからの生活への期待、不安が入り混じった複雑な心境かと思えます。

本学は、皆さんもよくご存知のように、新型コロナウイルス感染症に正面から立ち向かった代表的な大学です。コロナ対応における医療の現場では、チャレンジの連続でしたが、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」「試行錯誤を大切に」「責めるより応援しよう」の3つのキャッチフレーズのもと、全学をあげて取り組んだことで社会の要請に応えることができました。

社会の求めに応じるという意味では、東京工業大学との統合もその一つです。

来年度には新大学となる見込みですので、新大学の誕生の背景や目的、概要についてお話し致します。

本学は、今日の医療という点においては、世界最高水準の医療を提供していると言っても過言ではありません。先にお話ししたコロナ禍への対応がその一例です。しかし、本学は診療機関であるのみならず、教育機関であり、研究機関でもあります。つまり、今日の医療だけではなく、明日の医療をも担う使命があるのです。明日の医療を担う人材を育て、明日の医療を生み出す研究を実践すること、そして、明日の医療がどうなるかを社会に示すことが私たちには求められています。我が国は少子高齢化という点で世界の最先端にあります。この社会における医療課題の解決策は、我が国のみならず少子高齢化が進みつつある世界の課題の解決策にもなるのです。

その意味で本学は教育や研究面においても世界最高水準の医療系大学になる使命があると考えます。東京工業大学との統合は、本学を世界最高水準の大学に引き上げるための大きな一歩なのです。折しも東京工業大学も理工系の大学として世界最高水準への進化を模索していました。志を同じくする両大学が統合することで、それぞれの大学の守備範囲が広がり、より幅広い人材の育成、深い研究を実現できると考えました。

そして両大学の統合協議を経て、新大学は、これからの「科学」の発展を担い、社会と共に活力ある未来を切り拓いていくという強い意志を表現するため、その名称を東京科学大学としました。

共に「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学でありたいと考えています。

では、このような科学の進歩は医学歯学にどのような変革をもたらしているのでしょうか。

例えば、医学においてはデータサイエンスが必須のものとなる他、医工学は看護や検査医学の領域に大きな変革をもたらしつつあります。歯学の領域でもデジタル化が既に本格化し、義歯の作成はコンピューターグラフィクスと3Dプリンターによる時代が始まっています。

皆さんは、卒業後は、さらに進んだ医療、医歯学の未来を担うことになります。

その基盤をつくるためにも、来年度の統合前から東京工業大学の理工学部との交流や課外活動など学生レベルの交流について大学としても応援することを検討しています。このような交流の機会を積極的に活用し、視野を広げネットワーク形成に努力することをお勧めします。縁あって本学に入学した以上、この環境を十分に活かして、自らの専攻を学ぶだけでなく、周辺領域を学び、新知見を産み出していく考え方を身につけて頂くことが、皆さん個人にとっても皆さんが貢献する未来社会にとっても重要と考えています。

パンデミック、ウクライナ戦争等により、いま世界の状況は日々変化し続けています。

皆さんの置かれた環境、関連する規制、そして取り巻く社会にいたるまで、今まで当たり前だったことがそうではなくなるのです。そのような皆さんに特に勧めたいことがあります。

それは 成功体験に執われず試行錯誤を大切にすることです。

皆さんにとって身近な学習方法を例にとってお話します。私は、かつて医学科の教育委員長として、皆さんの先輩に当たる学生を少なからず見てきました。難関を突破するための大変な努力の末に入学した学生の中には、その学習スタイルから抜けることが出来ず、本学の膨大な学習量の前に疲れてしまった人も居ました。

他方、さしたる努力もなしに合格した人もいました。その中には受験の成功体験が忘れられず地道な勉学が出来ずせっかくのポテンシャルを活かせないまま卒業した残念な学生も居ました。

先ほどもお話ししたように、本学は、全学をあげてのコロナ対応や大学統合など、新しい試みに取り組んでおります。

これからの皆さんの勉学も同様です。これまでの成功体験が通用しない学習の機会に遭遇することがあると思います。そのときは、過去の成功事例に固執することなく、「試行錯誤を大切に」「自分を責めるより 自分を応援して」新しい勉学方法にチャレンジして欲しいのです。また、壇上にいる部局長をはじめとする教職員だけでなく来賓の諸先輩が皆さんの試行錯誤をサポートします。

本学の教育目標は、Clinician Scientist つまり、医療の視点を持った研究者 と Scientific Clinician 科学的視点を持った医療者 の養成であり、いずれも科学を重視している点は同じであり、時代の要請に答えてもいるのです。

皆さんがClinician ScientistやScientific Clinicianを目指して、これから充実した学生生活を、そして素晴らしい人生を送られることを祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

2023年4月5日

東京医科歯科大学 学長 田中 雄二郎